

視察研修報告書

1 委員会名
産業建設常任委員会
2 実施名称（テーマ）
産業建設常任委員会県外視察研修 ・岩手県盛岡市の地場産業の実情について ・岩手県小岩井農場のバイオマス発電事業の実情について ・岩手県遠野市の木質バイオマス事業の実情について ・東北地方の国営公園の実情について
3 実施期日
平成30年7月11日（水）～13日（金）
4 実施場所
岩手県盛岡市 公益財団法人盛岡地域地場産業振興センター（盛岡手づくり村） 岩手県雫石町 （株）バイオマスパワーしずくいし（小岩井農場敷地内） 岩手県遠野市 市役所及び遠野バイオエナジー（株） 宮城県川崎町 東北地方整備局東北国営公園事務所（みちのく杜の湖畔公園）
5 実施目的
・盛岡手づくり村の事業について（取組みについて、観光客やインバウンドの状況について） ・遠野市の木質バイオマス事業について（市庁舎の木質バイオマスボイラーについて、木材の集積、循環型社会の実現に向けた取り組みについて） ・みちのく杜の湖畔公園事業について（建設工事費用、維持経費について、設営にあたって努力されたこと、苦勞していることについて、全体計画について）
6 参加者の氏名
委員長 富沢重典 副委員長 大場壯次 委員 原沢今朝司、山本日出男、劔持秀喜
7 その他

視察研修等委員別報告書

1	作成者氏名
	富沢 重典
2	視察研修の実施名称（テーマ）
	盛岡市 手づくり村 岩手県 （株）バイオマスパワーしずくいし 岩手県 遠野市（庁舎チップボイラー） 宮城県 東北地方整備局（国営みちのく杜の湖畔公園）
3	実施結果に対する所感、意見等（質疑・意見交換した内容、今後の町政に生かすべき点等）
	<p>盛岡手づくり村は、地場産業振興育成事業が全国各地で行われた事業の中で成功した数少ない施設であると思う。当町の施設、つむじ・木工館・陶芸館等が連携するか、学校跡地でも良いと思いますが、中之条町の民芸品を集結し実演販売できればより魅力ある中之条のPRができると思います。</p> <p>（株）バイオマスパワーしずくいしは、小岩井農場の一角にあり家畜排泄物処理の有効利用から始まった事業との事で、当町で取り組むには、残念ながら資源が足りないように感じました。</p> <p>遠野市の庁舎チップボイラーは、当町でも3施設で導入予定のチップボイラーと類似している。遠野市では、すでに学校では、ペレットボイラーやチップボイラーが入っており資源の活用の先進地であった。ペレットボイラーは、ペレットの品質があまり良くない事から今後はチップボイラーを進めていくとの事。東北地震で半壊し昨年完成した新庁舎のボイラーを視察し、正直ものすごく大掛かりの施設だと感じました。改修して導入するには、相当大規模な工事になるのだと思いますがメンテ等はあまりかからなく良い施設だと考えます。遠野市役所のチップの消費は1日約5m³、1m³の単価は3,500円と環境にも経済的にも素晴らしいと思います。</p> <p>国営みちのく杜の湖畔公園は、公園面積647.4ha（陸地292.3ha 水面355.1ha）、北地区・里山地区・南地区と3つのエリアに分かれており、年間の管理委託費が約4億と規模も金額も真似は出来ませんが中之条全体の観光エリアマップを作り、嵩山エリア・ガーデンズエリア・丘の上エリアその他温泉地を入れてPRすれば面積も金額も太刀打ちできると考えます。今後中之条テーマパークマップ作成の研究をしていきたいと思っています。また遊具充実の必要性を更に強く感じました。</p>
4	その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ）

視察研修等委員別報告書

1	作成者氏名
	大場 壯次
2	視察研修の実施名称（テーマ）
1	盛岡手作り村の事業について。
2	（株）バイオマスパワーしずくいしの事業について。
3	遠野市の木質バイオマスボイラーについて。 遠野バイオマスエナジー(株)の事業について。
4	国営みちのく杜の湖畔公園について。
3	実施結果に対する所感、意見等（質疑・意見交換した内容、今後の町政に生かすべき点等）
1	盛岡手作り村は、昭和 61 年 5 月に開村し入場者は、平成元年～平成 3 年まで 100 万人あったが、年々減少し平成 22 年には 48 万人になり、展示即売室売上高もピーク時は 5 億 8 千 9 百万円あったが平成 29 年度は 1 億 7 千 3 百万円で 6 割減になっている。入場無料、駐車場無料、手作り教室は有料で、インバウンドにより外国人の方が多く見られるようになり 5 か国語で対応しているとのこと。運営は〔公財〕盛岡地域地場産業振興センターで行っている
2	（株）バイオマスパワーしずくいしの事業は、バイオマス（「家畜排泄物」と「食品残渣」）を処理して得られるメタンガスを利用した発電事業及び「家畜排泄物」と「食品残渣」から堆肥化事業又余剰電力と堆肥の販売事業で、平成 18 年 4 月から事業を開始したが当初は毎年赤字が続いていたが現在は、借入金の返済ができるようになってきたとのこと。
3	遠野市木質バイオマスボイラーは、遠野市の本庁舎新築（平成 29 年 9 月 3 日開庁）に伴い、遠野市に豊富にある森林資源（製材残材・林地残材）をチップにし、ボイラーの燃料とし冷房及び暖房を行っている。今のところ問題はないとのこと。 遠野バイオエナジー(株)の事業は、林地残材や工場端材などを木質バイオマスとして有効に活用するため、木質バイオマス燃料の製造や木質バイオマスボイラーの普及を行っていて、遠野市のバイオマスボイラーにもチップを納めている。忙しく稼働しているようでは、ない様子。
4	国営みちのく杜の湖畔公園は、東北地方の広域的レクリエーション需要への対応等を目的として、昭和 56 年度事業着手（釜房湖畔公園＜環境整備事業＞）し、平成元年に 1 期目が開園し、33 年をかけて平成 26 年 6 月 8 日（日）に全園開園（3 地区で構成され全体面積 647 ha）総事業費は、470 億円 平成 29 年 8 月に累計入園者 1,600 万人達成し年間約 75 万人が来園。 年間管理費は 9 億円で、収支を伺うと入園料金・駐車料金等は一般会計に入るのでわからないとのこと。
4	その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ）
	当町でも、中之条町有施設での木質バイオマス熱利用事業化基本計画が、出されていますが新築の場合は設計の段階でスペースの確保が得られますが既設町有施設では、スペースの確保が重要かと思えます。故障した場合を考えて、化石燃料を使用した代替のボイラーが必要で、チップ材の材質もチップの品質に影響するので注意が必要です。

視察研修等委員別報告書

1 作成者氏名
原沢今朝司
2 視察研修の実施名称（テーマ）
①盛岡市・盛岡手づくり村 ②バイオマスパワーしずくいし ③遠野市役所 ④東北地方整備局 国営みちのく杜の湖畔公園
3 実施結果に対する所感、意見等（質疑・意見交換した内容、今後の町政に生かすべき点等）
①盛岡市・盛岡手づくり村 盛岡手づくり村は、地場産業の 15 軒の工房で構成される地場産業センターである。市街地では営業できなくなった工房を集めて展示や体験、みやげのも販売などを行っている。南部曲屋の移築も見られる。体験では南部煎餅が 1 個 100 円で焼くことができる。休日には行列ができる盛況ぶりだということ。気軽に大人も子どもも体験できる施設は「美野原」や「道の駅」などでも参考になると思う。
②バイオマスパワーしずくいし ここは小岩井農場の家畜の糞尿処理が義務づけられたため、その処理と循環型社会の構築を目的に 10 億円を投入して建設された。バイオマスを使い電力や堆肥として活用しているが原材料と堆肥の処分が 3000 ㌦の土地を持つ小岩井農場でできるため恵まれている。
③遠野市役所と遠野バイオエナジー（株） 遠野市役所の新築に伴い市庁舎に木質バイオマスバイラーを導入したもの。遠野は 80%が森林ということ。有効活用できれば循環に役立つが原料のチップ確保が安定しないという悩みがありそう。ペレットストーブも推奨しているがペレットの確保など普及が進んでいないという。
④東北地方整備局 国営みちのく杜の湖畔公園 仙台郊外にある国営公園は、釜房ダム周辺面積 647 ㌦、と広大なもの。昭和 56 年から 33 年間をかけて国交省が整備をすすめていたもので年間 75 万人が利用する。場内はエコキャンプみちのく、ふるさと村、彩の広場にわかれている。我々が見たのはふるさと地区であったが子どもが遊べる区域や東北の民家を移築した区域など広大なものであった。なぜ国営で整備しなければならないのか疑問も残る施設である。規模が違いすぎて町が整備する公園とは比較できない。
4 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ）
今回の視察は 2 泊 3 日であった。距離も遠く随行は事務局長一人で行程的にも無理があると思う。執行部も参加せず、随行者を絞るのであれば公共交通機関を利用するなど、視察そのもののあり方を検討すべきではないか。

視察研修委員会報告書

1 作成者氏名 山本日出男

2 【産業建設常任委員会県外視察施設と目的】

- ① 盛岡手づくり村（岩手県盛岡市）の設立の目的や事業の実施状況及び経営状況について
- ② ㈱バイオマスパワーしずくいし（岩手県岩手郡雫石町）設立の経緯と運転状況
- ③ 岩手県遠野市庁舎（岩手県岩手郡雫石町のバイオマスボイラーの設置経緯と運転状況について
- ④ 国営みちのく杜の湖畔公園（宮城県柴田郡川崎町）の事業概要と基本方針

3 【視察施設の設立と概要】

- ①は〔振興センターゾーン〕〔手づくりゾーン〕〔南部曲がり家ゾーン〕の3施設と駐車場公園緑地で構成され昭和61年5月に開村した、〔広域法人盛岡地域地場産業振興センター〕は盛岡広域地区の地場産業の振興をはかるために、盛岡県、盛岡広域市町、商工会議所、商工会、南部鉄器協同組合から構成、文化芸術の振興と地場製品の紹介と販売、特に冬場はインターネットでの販売に力を入れる
- 〔手づくりゾーン〕は15の伝統工芸品の工房が独立採算で通年営業〔南部曲がり家ゾーン〕では南部曲がり家を移築し、民具を展示。村の入場者は平成元年1,120,331人がピークで、29年度は417,857人、5カ国のパンフレットと免税対応で、入場者の増加は外国人に、可能性をかけている。中之条町でも外国人の増加対策と、伝統工芸や伝統食品等の施設の運営にもっと目を向けるべきと思う。
- ②は主に小岩井農場の家畜糞尿83t/日、雫石町学校給食加工残渣29t/日、花巻ココロラ工場コーヒー糞3t/日、合計約115t/日のバイオマスで4,000kwh/日の電力を発電、場内で2,000kwh/日、残り2,000kwh/日は11円で売電、堆肥29t/日(1,000円/t)・消化液52t/日(10円/t)は小岩井農場へ販売、8人の従業員で5,000haの小岩井農場の敷地内で3.6haの敷地面積で10億円の建設費の発電施設を運営している。糞尿でのバイオマス発電は中之条町では安定的なバイオマスの確保とコスト的に無理があると考えられる。
- ③は東日本大震災で本庁舎全中央館が全壊した後、新設庁舎に林野庁の補助金6億円で300kw 2台（予備A重油ボイラー1台349kw）の冷暖房用チップバイオマスボイラーを設置、（ランニングコスト4,000円×チップ5m³/日=20,000円）コストはA重油の1/3でチップの原材料は地域エネルギー会社〔遠野バイオエナジー〕を設立し（林地残材・工場残材丸太の50%以上は残材・パーク・剪定枝）等を利用して木材チップを供給している、市の面積826km²と広くこれからも他の施設にも導入の計画がある。
- ④は中之条町でも現在計画中のバイオマスボイラー設置について将来性やコストの面で大いに参考になったのは平成元年I期開園、33年かけて平成26年6月8日全園開園年間約75万人100万人を目指す面積647.4haで（健康と緑・文化と水・湖面湖畔・森と環境）ゾーンで構成され管理は国の職員13人、年間9億円の経費で、維持管理は民間に一般競争入札により4億円で契約して管理している。

- ## 4 【考察】
- 4箇所視察を終えて、どこの市町村でも地域の特性を生かして長いスパンで政策を立案し実行に移している。中之条町でも先進的に政策を実行しているが、さらに将来を見据えて新しい情報を取り入れ調査研究の上、更なる投資を行う必要があると考える。

視察研修等委員別報告書

1 作成者氏名	劔持秀喜
2 視察研修の実施名称 （*テーマ）	1) 盛岡手づくり村（公益財団法人盛岡地域地場産業振興センター）*事業状況とインバウンド 2) (株) バイオマスパワーしずくいし(小岩井農場敷地内) *導入の経緯と概要、費用等 3) 遠野市役所及び遠野バイオエナジー（株）*庁舎のバイオマスボイラーの運用等 4) みちのく杜の湖畔公園（東北地方整備局東北国営公園事務所）*維持管理と費用、運営状況
3 実施結果に対する所感、意見等 （質疑・意見交換した内容、今後の町政に生かすべき点等）	<p>1) <u>盛岡手づくり村</u></p> <p>昭和61年にオープン、岩手県はじめ盛岡市等8町村と商工団体等からなる公益財団法人で運営、まさに全国各地で見られたバブル期の施策であるが、今でも生き残っている数少ない施設と思われる。29年度417,857人173,474,799円入込売上ともに全盛期の1/3。しかしながら、冷麺等特産品のインターネット販売、代理店への営業、クーポンの発行、特にインバウンドに力を入れており、29年度は20,565人約5%が外国人、特に台湾からの団体が多く、その努力や成果も伺え、施設内で常時多国語でのアナウンスが流れているなど参考になった。</p> <p>2) <u>(株) バイオマスパワーしずくいし</u></p> <p>小岩井農場内にあり家畜排泄物、食品残渣を処理し発電と堆肥化を事業とし、平成18年より稼働、当初売上7~8千万円が現在1億6千万円と黒字となっている。建設費10億、内国補助金5億、県補助金5330万、借入4億5千万、年間4千万返済という。肉、魚、加工品残飯は受け入れせず、1ト12,000円で受け入れているとのこと。地域(民間)がまさに地域の資源で地域のエネルギーを生み、その循環活用で地域を活性化させている取り組みでした。</p> <p>3) <u>遠野市役所及び遠野バイオエナジー（株）</u></p> <p>被災により建て替えた新市庁舎、デパートと併設されたまさに住民志向の斬新さを感じました。その地下に設置されているのが、チップボイラーでした。当町でも計画が進んでいますが、既存施設に併設は容易でなく場所による非効率化が懸念されました。その委託先である遠野バイオエナジーの施設も視察しましたが、周辺一帯が遠野市森林総合センターとして関連企業や訓練校等が多数集結されていました。そんな状況であってもチップの調達とその品質が課題であるとのことでした。</p> <p>4) <u>みちのく杜の湖畔公園</u></p> <p>東北唯一の国営公園、平成元年一部26年に全面オープン、総工費470億円、年間入場者75万人、面積647.4ha、年間管理費4億円、全国17ある国営公園の入場者数でほぼ真ん中に位置する。</p> <p>広大で、綺麗で、遊具もあり、花あり、水あり、スタッフの対応も素晴らしく入場者100万人を皆で目指しているとのこと、課題がメンテナンス・リニューアルを戦略的にとのこと、素晴らしい。</p>
4 その他 （今後の課題・調査研究すべきテーマ）	昨年17の国営公園の一つ、越後丘陵公園を視察、入場者数全国で15番、今回が9番目のみちのく杜の湖畔公園、ぜひ断トツ一番の木曾三川公園を視察しその理由を学び活かしたいと思います。